



**地域を守り、動物と生きていく**

私たちが住んでいるまちには多くの野生動物が生息しています。地球温暖化による自然環境の変化や、人の居住区域の拡大による生活環境の変化などで、野生動物の一部が市街地に出て来て人とのトラブルが多くなっています。

私たちは、自然環境の維持や農林水産業の発展、安心な生活環境の確保のため、やむを得ず鳥獣の命を奪うことがあります。そのときに生態系の一員として、自然の微妙なバランスの中で生きていることを自覚し、動物を大切に思い、そのような命と引き換えに私たちの生活や社会が成り立っていることに感謝の気持ちを忘れないことが大切です。

野生鳥獣対策はすぐに効果が出るものではありません。私たちが互いに協力しながら、地域ぐるみで野生鳥獣を寄せ付けない環境づくりが必要です。被害の防止と共生を目指すためにも、一人一人が対策について意識を高めましょう。



## 地域の鳥獣被害に向き合う若いチカラ 野生鳥獣から田畑を、地域を守りたい

芦北町で野生鳥獣対策に取り組む地域おこし協力隊の渡邊義文さん。狩猟をするうえでさまざまな思いや心の葛藤があると言います。最近の野生鳥獣の急激な増加にはどのような要因があるのか、渡邊さんに現状や今後の展望について聞きました。

令和3年8月から芦北町の地域おこし協力隊に「有害鳥獣対策業務」担当として着任しました。着任後すぐに狩猟免許を取得。「捕獲」を中心に活動しながら、小学校や高校へ出向いて、里山保全や捕獲などの授業をしました。今年度から猟友会芦北支部の事務局長を務めています。

鳥獣を捕まえた瞬間はうれしく、地域の人にも喜んでもらえることから、最初は夢中で捕獲していました。もちろん、都会では高額な「ジビエ」がここでは無料で手に入ることも魅力に感じました。

しかし、次々に鳥獣が捕獲されるので、とうとう解体処理が追いつかない状況になってしまい、仕方なく山中へ埋めることが多くなりました。このような状況が続き、ただ命を奪うだけの罪悪感からか、心が苦しめられるようになり、一時体調を崩したこともありました。

現在、里山里山では、離農者や耕作放棄地の増加、過疎や高齢化など農村が抱える問題と共に、地球温暖化による



芦北町地域おこし協力隊 渡邊 義文さん (芦北町)

個体の越冬可能地域の拡大など、あらゆる問題が複合的に重なり、野生鳥獣が増えているのではないのでしょうか。

今後の目標として、獣の有効活用、狩猟者の増加につながる活動、わなの見回りや各事務手続きの負担軽減のためのIT（情報技術）やICT（情報通信技術）の活用、各種講習会の開催などに取り組みたいです。狩猟の楽しさやジビエのおいしさなど、自然や食と触れ合う魅力を広めていくため、現地とインターネットを使ったつながりづくりにも、併せて力を入れます。

これからも、地域内外に関係性を保ちながら、少しでも野生鳥獣対策が前進するよう努力していきたいと思えます。

### 野生鳥獣による被害への対策方法

野生鳥獣対策は**個体群管理**、**侵入防止対策**、**生息環境管理**の3つが基本です。この対策を地域ぐるみでいかに徹底してできるかが、対策の効果を大きく左右します。

#### 鳥獣対策の鉄則！3つの柱

**第1の柱 個体群管理**



鳥獣の捕獲

**第2の柱 侵入防止対策**



刈払いによる餌場・隠れ場の管理、放任果樹の伐採

**第3の柱 生息環境管理**



わなの設置などによる被害防除

出典：農林水産省鳥獣被害の現状と対策（令和4年10月）